

その出血、見過ごさないで!!

外科 佐谷 徹郎

トイレで排便したあと、出血したことはありませんか？

肛門から出血することを下血と呼びます。トイレットペーパーに少量の血液が付着する程度の出血から便器が真っ赤になる出血まで程度はさまざまです。赤色や黒色の血便になることもあります。

原因は消化管（口～食道～胃～十二指腸～小腸～大腸～肛門）からの出血です。排出された血液の色で出血している部位のおおよその見当がつきます。

真っ赤な血液（新鮮血）であれば肛門もしくは肛門に近い大腸からの出血、黒い血液であれば胃・十二指腸からの出血の可能性が高いです。（血液と胃酸が混ざると黒く変色します。）

下血の原因として頻度の高いもの

1

肛門からの出血

トイレできばった際に肛門が切れたり（裂肛）、痔から出血する場合があります。便秘気味の方は発症しやすくなります。

2

大腸がん

現在患者数が増えている悪性腫瘍です。知らぬ間に大きくなった大腸腫瘍から出血する場合があります。

3

腸炎

腸が炎症を起こして赤く腫れ上がり、出血します。細菌性やウイルス性の感染性の腸炎から難治性の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）まで多くの種類があります。

4

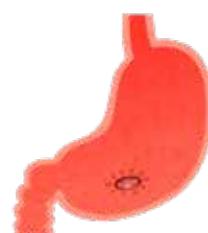
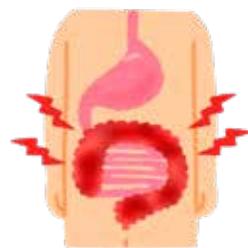
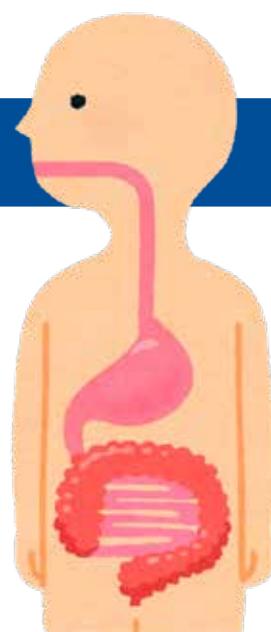
大腸憩室出血

年齢を重ねるにつれて大腸に小さなくぼみ（憩室）ができ、ここから出血することがあります。腹痛がほとんどないのに、多量の下血をするのが特徴です。

5

胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がん

食道、胃、十二指腸など上部消化管と呼ばれる部位からの出血は胃酸と混ざると黒色になるのが特徴です。（黒色便、タール便ともよばれています。）



下血を認めたら、そのまま放置せずに消化器科、外科の受診をお勧めします。出血の原因を突き止めるために、大腸カメラ（大腸内視鏡）、胃カメラ（胃内視鏡）などの検査が必要となります。

また日頃の健康管理として、トイレで便の状態を観察することをおすすめします。出血がないか、血便はないかを確認する習慣をつけましょう。

皆様が健康な生活を送れますよう、下血だけに限らず気になる消化器症状がございましたら担当医師にご相談ください。